



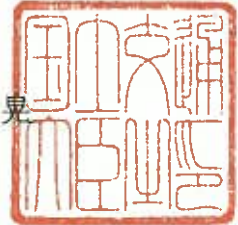
認定書

国住指第2992号
平成15年12月26日

日鐵建材工業株式会社

代表取締役社長 岡田明久 様

国土交通大臣 石原 伸晃



下記の構造方法又は建築材料については、建築基準法第68条の26第1項（同法第88条第1項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第2条第七号の二並びに同法施行令第107条の2第一号及び第二号（床：各45分間）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号

QF045FL - 0007

2. 認定をした構造方法又は建築材料の名称

デッキプレート・溶接金網入普通コンクリート床

3. 認定をした構造方法又は建築材料の内容

別添の通り

1. 構造名
デッキプレート・溶接金網入普通コンクリート床
2. 種類
建築基準法施行令第 85 条に規定する積載荷重が 1,800N/m² 以下の床
3. 寸法
床の各辺の長さについては、構造計算等により構造安定性が確認できる長さとする。
4. 材料構成等

項	目	製品仕様等
床板	デッキプレート	規格 JIS G 3352 鋼板の種類 SDP1T、SDP1TG、SDP2、SDP2G 及び SDP3 鋼板の厚さ(mm) 1.2 以上 鋼板の質量(kg/mm・m ²) 7.85 ± 0.05 鋼板の表面の形状 山部及び谷部：平滑 ウェブ部：エンボス 表面仕上げの種類 ・表面仕上げ無し ・溶融亜鉛めっき ・溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき ・溶融 55 %アルミニウム-亜鉛合金めっき ・溶融亜鉛-アルミニウム-マグネシウム合金めっき ・溶融亜鉛-0.5%マグネシウム合金めっき ・無機質系錆止め塗装等 大きさ(mm) 山高さ：50 ± 1.5 働き幅：614+8, -2 長さ：最小 100、最大 12,000 梁とのかかり代(mm) 50 以上
	コンクリート (普通コンクリート)	所定厚さ(mm) (デッキプレートの山上からの厚さ) 50 以上 コンクリート補強材のかぶり厚さ(mm) 30 以上(コンクリート上面から) 圧縮強度(N/mm ²) 18 以上(材令 28 日)

項 目		製 品 仕 様 等	
床板	コンクリート (普通コンクリート)	配合(kg/m ³) セメント 225 ~ 380 細骨材(砕砂、山砂、川砂等) 480 ~ 1,310 粗骨材(砕石、山砂利、川砂利等) 915 ~ 1,160 混和材(AE剤、減水剤、AE減水剤等) 2.7 ~ 4.2 水(清水等) 160 ~ 185 セメントの種類 ・ポルトランドセメント(JIS R 5210) ・高炉セメント(JIS R 5211) ・シリカセメント(JIS R 5212) ・フライアッシュセメント(JIS R 5213) 水セメント比(%) 67.0 以下 スランプ(mm) 180 以下 粗骨材の寸法(mm) 25 以下 細骨材率(%) 30 ~ 59 空気量(%) 4.5 ± 1.5 気乾単位容積質量(g/cm ³) 2.3 ± 0.1	
	コンクリート 補強材	溶接金網 規格：JIS G 3551(WFP、WFR、WFI) 線径(mm)：6 以上 間隔(mm)：150 × 150 以下 質量(kg/m ²)：3.06 以上 鉄筋(異形鉄筋) 規格：JIS G 3112(SD295A、SD295B)、JIS G 3117(SDR295) 直径(mm)：D10(公称直径 9.53) 以上 間隔(mm)：200 × 200 以下 質量(kg/m ²)：6.83 以上	
	総厚(mm)	100 以上	
	許容積載荷重 (N/m ²)	2,400 以下(床板の自重を除く固定荷重(600N/m ²)を含む)	
	梁芯相互の間隔 (mm)	2,400 以下	
	支持方式	単純支持または連続支持	
	床板の副構 成材料	補強材受けス ペーサー	鉄線 寸法(mm)：直径 4 以上 配置間隔(mm)：1,000 以下 セメントモルタルブロック 寸法(mm)：8 × 15 × 15 以上 配置間隔(mm)：1,000 以下
		小口ふさぎ材 (必要に応じて 取付ける。)	種類 熱間圧延軟鋼板、溶融亜鉛めっき鋼板、電気亜鉛めっき 鋼板等 厚さ(mm) 0.8 以上

項 目		製 品 仕 様 等
床板の副構成材料	頭付きスタッド	規格 JIS B 1198 寸法(mm) φ 13 × 80 以上 取付け間隔(mm) 600 以下
	デッキプレート の長さ方向 の重ね部留め 付け用ねじ(必 要に応じて留 め付ける。)	種類 タッピンねじ、ドリルねじ、ドリリングタッピンねじ 寸法(mm) φ 3.0 × 10 以上
デッキプレート の接合 方法	溶接直径、間 隔等	焼抜き栓溶接 溶接直径(mm) 18 以上 溶接間隔(mm) 幅方向：204 以下 長さ方向：600 以下 頭付きスタッド 留め付け間隔(mm) 幅方向：600 以下 長さ方向：600 以下
床板の施工 方法	デッキプレート の敷込み	デッキプレートを設置する梁芯相互の間隔が 2,400 mm 以下であることを確認する。デッキプレートを墨出し線に合わせて梁に配置する。デッキプレートの端部と梁とのかかり代は 50 mm 以上とし、この両者を溶接で仮止めする。
	梁とデッキプレートあるいは床板との接合	梁とデッキプレートあるいは床板とは、次のいずれかの方法で接合する。 a. 焼抜き栓溶接による接合 焼抜き栓溶接(直径 18 mm 以上)でデッキプレートを梁に溶接する。溶接位置はデッキプレートの谷部とし、溶接間隔は、幅方向が 204 mm 以下、長さ方向が 600 mm 以下とする。 b. 頭付きスタッドによる接合(A) 専用の溶接機(頭付きスタッド溶接機)を用いて、頭付きスタッド(φ 13 × 80 mm 以上)を、デッキプレートを貫通して梁に溶接する。溶接位置はデッキプレートの谷部とし、溶接間隔は、幅方向が 600 mm 以下、長さ方向が 600 mm 以下とする。 c. 頭付きスタッドによる接合(B) 専用の溶接機(頭付きスタッド溶接機)を用いて、前記頭付きスタッドを梁に溶接する。頭付きスタッドの溶接間隔は、幅方向が 600 mm 以下、長さ方向が 600 mm 以下とする。
	デッキプレート の長さ方向 相互の接合	デッキプレートの長さ方向相互の重ね部は、必要に応じて、溶接、タッピンねじ等で固定する。

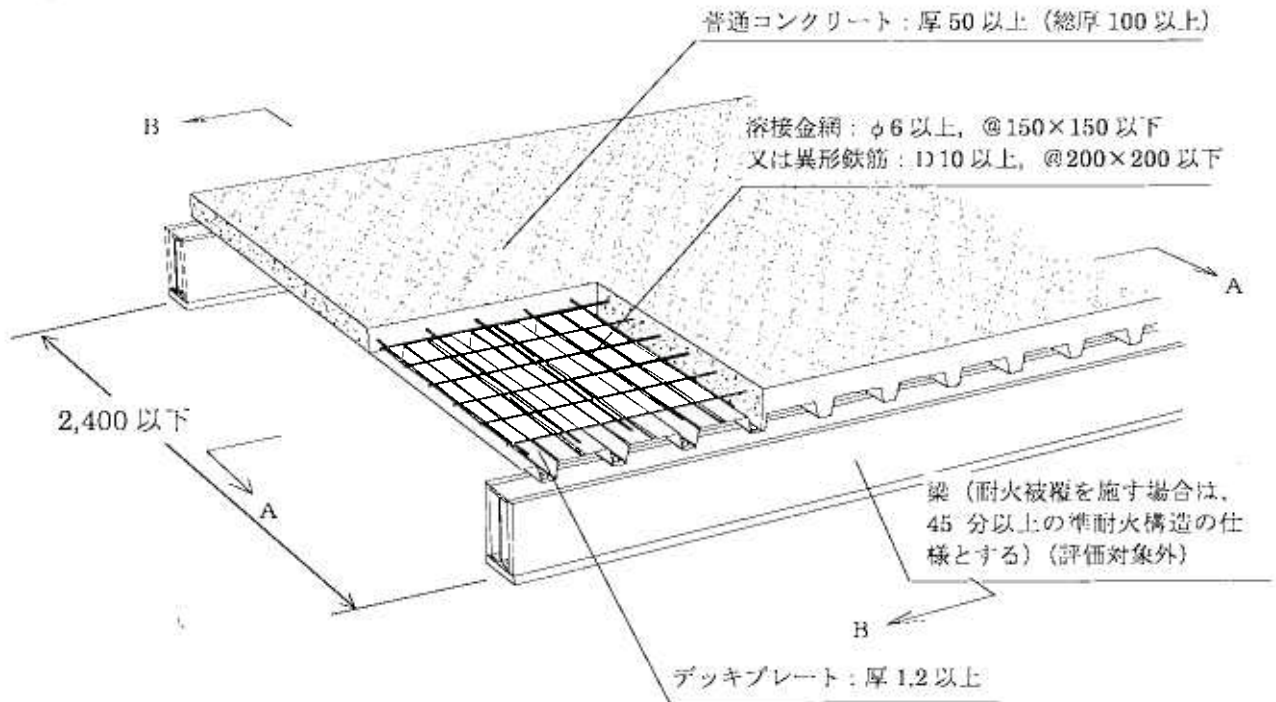
項 目		製 品 仕 様 等
床板の施工 方法	コンクリート 補強材の配置	溶接金網(φ 6 mm以上、@ 150 × 150 mm以下)または異形鉄筋(D10 mm以上、@ 200 × 200 mm以下)は、スペーサー(配置間隔 1,000 mm以下)を用いて、床板上面からのコンクリートのかぶり厚さが 30 mm以上となるように床全面に敷き並べる。
	コンクリートの 打込み	コンクリートは、補強材の移動によりかぶり厚さ不足が生じることがないように、また、所定厚さを確保するように不陸なく打込む。
	コンクリートの 仕上げ	コンクリートの表面は金ごて等の仕上げを施す。

5. 構造説明図

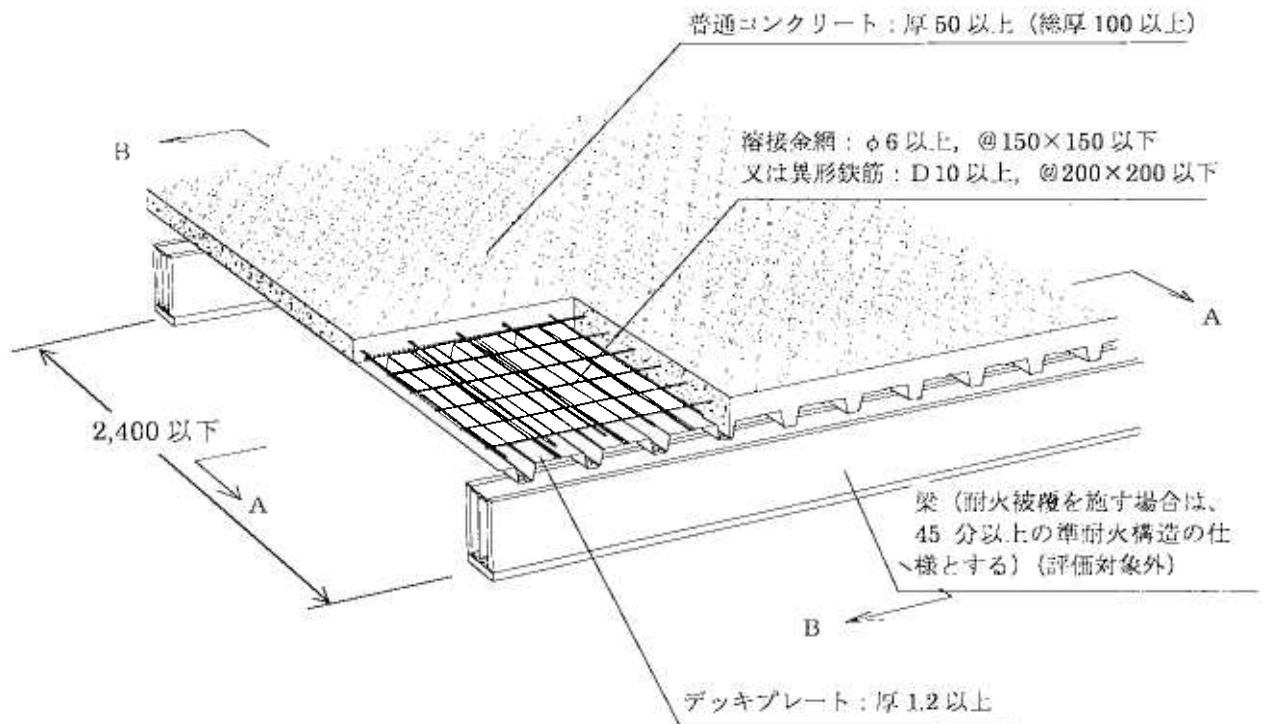
(1) 透視図

(単位：mm)

(1)-1 デッキプレートが単純支持の場合



(1)-2 デッキプレートが連続支持の場合

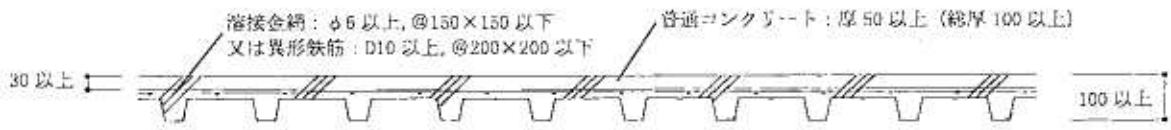


※梁に耐火被覆材を施工する場合は、上フランジにも耐火被覆材を施す。

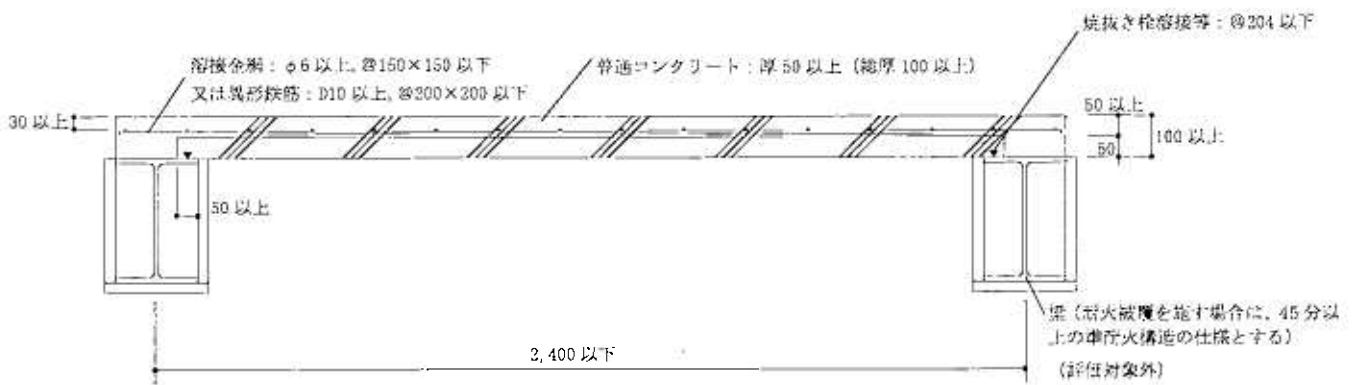
(2) 断面図

(単位：mm)

(2)-1 デッキプレートが単純支持の場合



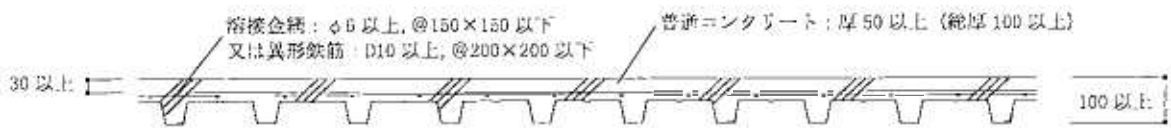
〔A-A断面〕



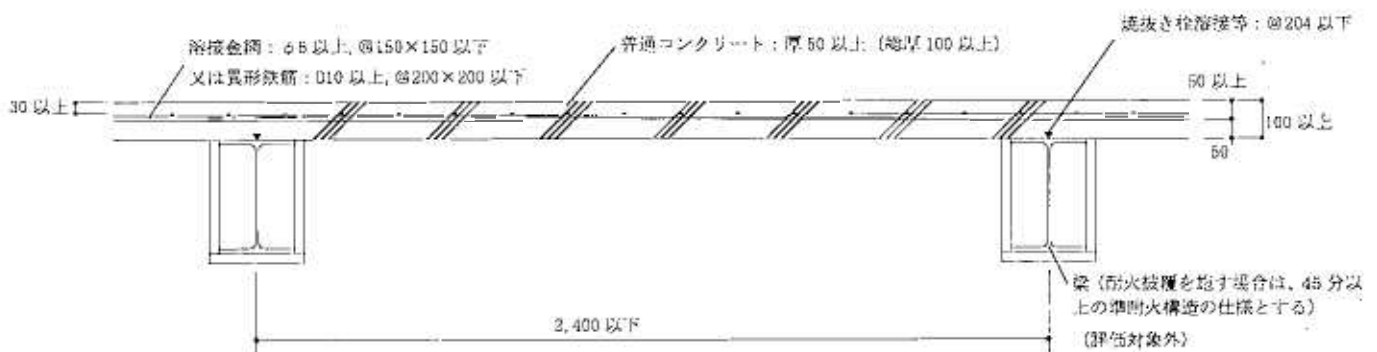
〔B-B断面〕

(単位：mm)

(2)-2 デッキプレートが連続支持の場合



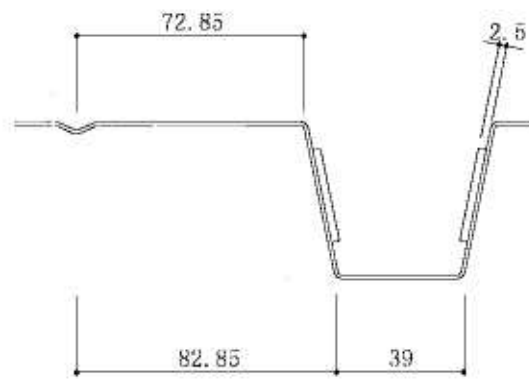
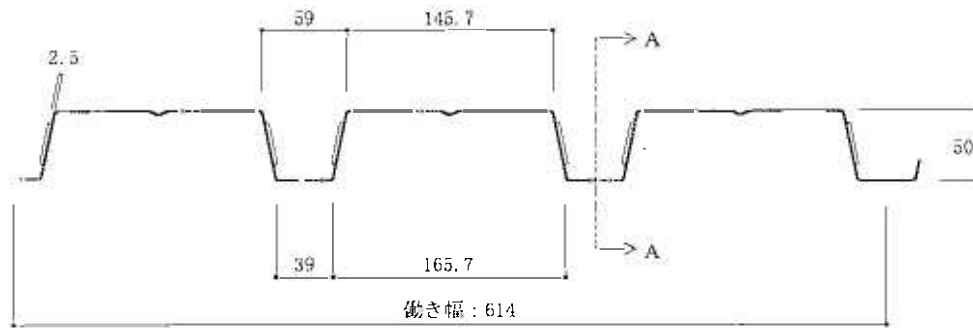
〔A-A断面〕



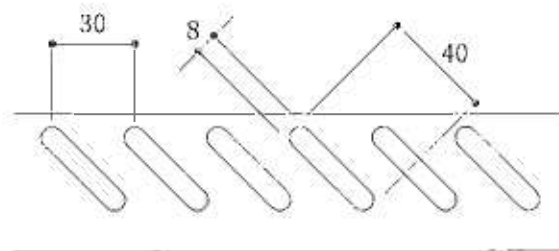
〔B-B断面〕

(3) デッキプレートの形状・寸法

(単位：mm)



詳細図

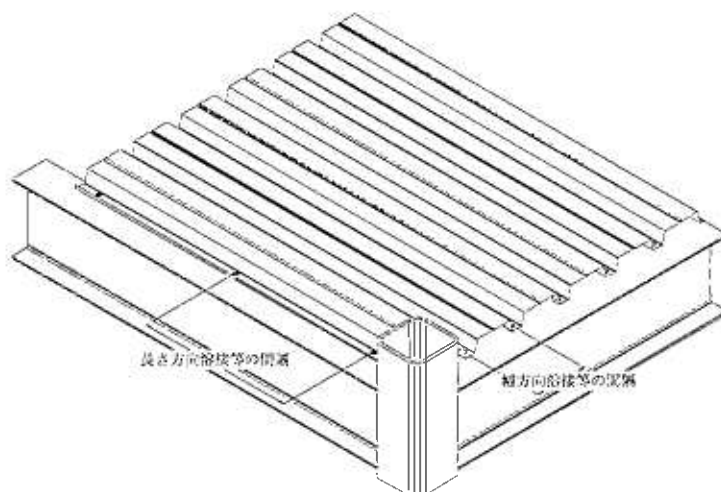


A-A断面

6. 施工方法

(1) デッキプレートの敷込み

デッキプレートを設置する梁芯相互の間隔が 2,400 mm 以下であることを確認する。デッキプレートを墨出し線に合わせて梁に配置する。デッキプレートの端部と梁とのかかり代は 50 mm 以上とし、この両者を溶接で仮止めする。



(2) 梁とデッキプレートあるいは床板との接合

梁とデッキプレートあるいは床板とは、次のいずれかの方法で接合する。接合方法は、「平成 14 年国土交通省告示第 326 号」の規定または「鉄骨工事技術指針・工事現場施工編(日本建築学会)」もしくは「各種合成構造設計指針・同解説(日本建築学会)」によるものとする。

a. 焼抜き栓溶接による接合

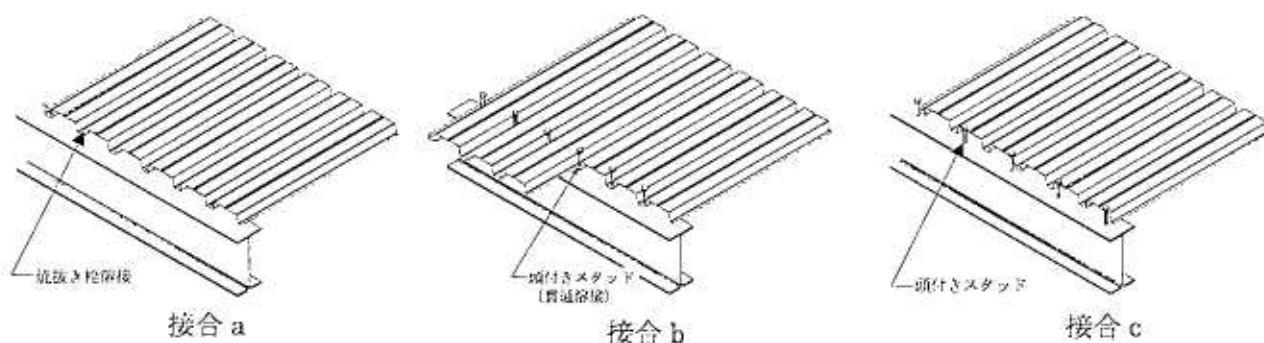
焼抜き栓溶接(直径 18 mm 以上)でデッキプレートを梁に溶接する。溶接位置はデッキプレートの谷部とし、溶接間隔は、幅方向が 204 mm 以下、長さ方向が 600 mm 以下とする。ただし、長さ方向の梁への接合において、デッキプレートの下フランジが狭く、焼抜き栓溶接が困難な側については、すみ肉溶接で 600 mm 以下の間隔で梁に溶接する。

b. 頭付きスタッドによる接合(A)

専用の溶接機(頭付きスタッド溶接機)を用いて、頭付きスタッド($\phi 13 \times 80$ mm 以上)を、デッキプレートを貫通して梁に溶接する。溶接位置はデッキプレートの谷部とし、溶接間隔は、幅方向が 600 mm 以下、長さ方向が 600 mm 以下とする。

c. 頭付きスタッドによる接合(B)

専用の溶接機(頭付きスタッド溶接機)を用いて、頭付きスタッド($\phi 13 \times 80$ mm 以上)を梁に溶接する。頭付きスタッドの溶接間隔は、幅方向が 600 mm 以下、長さ方向が 600 mm 以下とする。(この場合は、コンクリートを打込むことにより、頭付きスタッドを介して床板と梁とを接合することになる。)



- (3) デッキプレートの長さ方向相互の接合
デッキプレートの長さ方向相互の重ね部は、必要に応じて、溶接、タッピンねじ等で固定する。
- (4) デッキプレートの小口処理
必要に応じて、デッキプレートの山部の小口を熱間圧延軟鋼板等で塞ぐ。
- (5) コンクリート打込み厚さ確認用定規(鉄筋等)の取付け
必要に応じて、コンクリート打込み厚さを確認する定規(鉄筋等)を梁に取付ける。
- (6) コンクリート補強材の配置
溶接金網または異形鉄筋は、スペーサー(配置間隔 1,000 mm 以下)を用いて、床板上面からのコンクリートのかぶり厚さが 30 mm 以上となるように床全面に敷き並べる。
溶接金網は、直径が 6 mm 以上、網目間隔が 150 × 150 mm 以下のものとする。異形鉄筋の直径は D10 以上とし、配筋間隔は縦及び横とも 200 mm 以下とする。異形鉄筋の加工及び組み立ては、「建築工事標準仕様書・同解説 JASS 5 鉄筋コンクリート工事(日本建築学会)」(以下、「JASS 5 鉄筋コンクリート工事」という)に準拠する。
- (7) コンクリートの打込み
コンクリートの打込みは、「JASS 5 鉄筋コンクリート工事」に準拠する。コンクリートは、補強材の移動によりかぶり厚さ不足が生じることのないように、また、所定厚さを確保するように不陸なく打込む。
- (8) コンクリートの仕上げ
コンクリートの表面は金ごて等の仕上げを施す。
- (9) コンクリートの養生
コンクリートの養生は、「JASS 5 鉄筋コンクリート工事」に準拠する。初期には湿润養生を行う。